

# 地域連携の重要性

## ～光陽っ子のために（安全・見守り）～

富山県富山市立光陽小学校PTA  
会長 高橋 一幸

### 1 はじめに

#### (1) 地域の紹介

富山市は富山県の中央部から南東側へ、海から山まで広がる市である。県庁所在地で人口も約40万人となっている。光陽は街中エリアで通勤者も多く居住するエリアである。



#### (2) 富山市立光陽小学校及び校区の紹介

光陽小学校は2002年4月6日に開校した。西田地方、堀川、蜷川の各校区の一部を併合して東西は国道41号線から神通川、南北は北陸道から有沢線（県道62号線）までの範囲とし、23年目の比較的新しい校区である。

富山県内でも全国的にも珍しく、地域のほとんどが



田畑であった頃に小学校の位置が最初に決められた。小学校を中心に遊歩道が整備され、車の流入を制限し、子どもの通学路の安全を第一に考え区画整理された地域となっている。

校区内には公設地方卸売市場、企業やお店、住宅が多く建ち並んでいる地域ではあるが、各所に大小多くの公園が点在

した住みやすく散歩や散策も楽しめる地域となっている。

校名の『光陽』の由来は、立山の紅葉の美しさからイメージした響きと、立山から昇る太陽を全身に浴び、健やかに子どもが育ってほしいという願いが込められている。

#### (3) 光陽校区創立20周年記念

2022年3月20日には校区近くにある有限会社マツダ花火師大



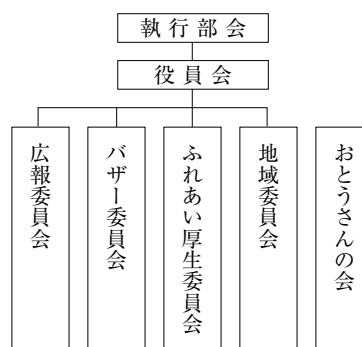
橋氏による打ち上げ花火の講話を頂き、その夜に光陽小学校運動場で打ち上げ音楽花火の実演をして頂いた。



PTAとしても小学校在籍児童全員の手形による虹の制作物をみんなで作り上げ、パネル化したものを体育館下のピロティに設置した。

### 2 PTA活動について

#### (1) PTA組織体制について



広報委員会…各種イベントの広報活動  
及び広報誌の作成と発行。

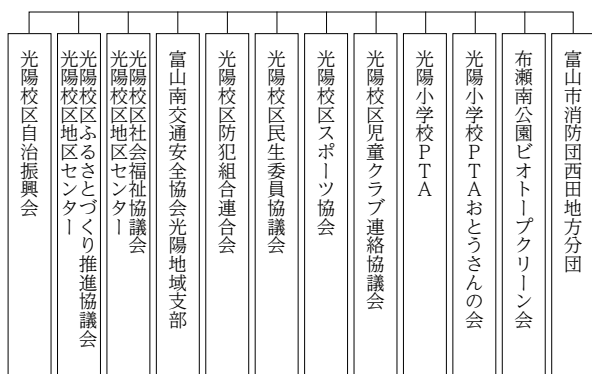
バザー委員会…バザーの企画と運営。  
近隣地域のお店との連携。日常的に  
お世話になっている方の招待。地域  
住民の方への貢献。

ふれあい厚生委員会…学級ふれあい活  
動、給食試食会の企画運営、各団体  
や市提供出前講座を利用した講話や  
体験会の企画運営。

地域委員会…各町内会地域児童係から  
選出された地域の代表者と連携した  
資源回収の実施。交通安全指導の取  
り組みや地域の旗持、除雪等の当番  
の割り当て及び実施。

おとうさんの会…年間2回の独自イベ  
ントの企画運営とPTA・地域行事  
のサポートの実施。

## (2) 地域組織体制について



PTAが関わる地域の団体は代表的な  
ところだけでも10を超える。日頃から  
地域の行事・活動に密接に関わって  
いる。学校運営協議会は各団体の代表が定  
期的に集まり、学校の困り事や光陽っ子  
の近況について情報交換をし、地域の安  
全について議論している。

## (3) 活動について

事前に地域の各団体と年間行事につ  
いて次年度分の実施時期の調整を行って  
いる。イベントの日時が重複しないよう  
に考慮することで、顔を合わせる機会を増  
やし地域とのコミュニケーションを図る  
ことを目的としている。

PTAとしては毎年4月に総会を開催  
し、前年度の事業報告と決算・監査報告  
後に今年度の事業計画案と予算案の審議  
後、承認頂いた内容を執行している。こ  
こで新年度の事業計画案を説明後、各委  
員からイベントや行事の予定が共有され  
活動がスタートする。計画された行事の  
中には、PTAだけでは全てをカバーす  
ることは難しい現状がある。そういった  
時に地域の各種団体の手助けは非常に心  
強い。

また、学校・PTAを取り巻く環境は  
刻々と変化しており、人も資金も減少傾  
向にある。教職員の業務も多岐に渡り多  
忙化する中、それらを解消することも、  
地域と連携・協力することで改善を図る  
ことが求められている。

## 3 地域連携について

### (1) 安全について

新年度になって一番重要なのは新1年  
生のケアとなる。もちろん他の学年も進  
級して不安定な時期でもあるが保護者付  
き添いから単独行動も多くなり、子ども  
たちだけの移動も増えてくる。そのた  
め、登下校時は地域の見守り隊や各町内  
の民生児童委員、旗持当番による交通安  
全指導を実施している。



また薄暮期は地域の防犯組合連合会と  
PTAが連携して防犯パトロールを実施  
し、通学路に危険箇所等がないか見回  
りを行っている。このパトロールは光陽地  
域に流入される方々に対しても、この地  
域は防犯意識が高いことを認識してもら  
い、同時に安心・安全な環境が作られて  
いるとの広報活動の意味もある。

## (2) 見守りについて

見守りについては光陽地域一体となって形成されている。見守りと言っても地域のコミュニケーションが頻繁に図られ、様々な情報が常にアップデートされることが重要である。光陽では地域の各団体のイベントに相互で助け合いながら、光陽っ子を見守っている。以下、主要な地域連携イベントを紹介させて頂く。

### ア 「光陽夏まつり」

光陽ふるさとづくり推進協議会が主催する



光陽校区最大のイベントである光陽夏まつりへPTAとして参加をしている。各種団体が運営ボランティアや模擬店を出し、地域住民が参加する最大の交流の場となっている。PTAも3つの食品提供、2つのゲーム体験を準備し、光陽っ子や地域住民の方々と交流している。

光陽校区に集う各種団体が光陽っ子、地域住民に楽しんでもらうため、7月末の開催までに準備をする。当日は日頃なかなか顔を合わせない各地域の方々も小学校に集い、会話しながらコミュニケーションが図られている様子を数多く目にすることができる。この校区全体の夏まつりを皮切りに各町内会の夏まつりが開催されていき、光陽っ子も自分の町内に留まらず各町内の夏まつりに行き、友達や地域の方々



と交流し関わりを深めている。

### イ 「光陽わくわくバザー」

光陽小学校PTAが主催するPTA最大のイベントの光陽わくわくバ

ザー。バザー委員が主となり、各委員や係を務める保護者や地域の企業の方々にも協賛頂き数多くの提供品や飲食ブース、ゲームコーナー等を運営している。コロナ禍で地域住民の方の入場が一時制限されたこともあったが、徐々に地域の方も戻りつつある。日頃の感謝の気持ちを込めて見守り活動をして頂いている方々や光陽っ子がお世話になっている地域の団体の方々を招待して交流を図りながら情報交換をしている。



### ウ 「その他のイベント・行事」

- ・光陽校区児童クラブ連絡協議会主催で各町内会地域児童係と連携しビーチボールやドッジボール体験会、海岸でのヒスイ探し、雪山での雪遊びを実施。
- ・各町内会連携保健衛生連合会主催の美化大作戦。校区の住民が参加しての清掃活動。PTAも地域住民と協力して学校周辺の清掃活動を実施。
- ・光陽校区スポーツ協会主催の住民大運動会。運営スタッフとしてサポート。
- ・各町内会地域児童係・光陽小学校PTA・おとうさんの会にて積雪時の除雪対応を実施。

## (3) 地域移行について

地域を学ぶ課外活動を地域住民や保護者に協力を依頼して開催されているイベントを一部紹介する。

### ア 「ぬのみなビオトープをきれいにしよう！」

光陽校区内最大の布瀬南公園内にある「ぬのみなビオトープ」は校区誕生5周年をきっかけに住民主導・参加型で作られ、毎月長寿会主催の歩こう会

の後にビオトープの清掃活動や生き物観察会がビオトープクリーン会主催で開催されている。朝早くのイベントではあるが児童も教職員も参加し地域住民の方との交流の場となっている。また光陽小学校PTA、おとうさんの会はビオトープの維持として要請に応じて清掃活動に協力している。



#### イ 「縦割りウォークラリー」

光陽校区内にある各スポット、お店、企業、神社や公園を周り、光陽校区の良い所を新たな目線で再発見し、自身の住む地域を知ってもらうことを目的としている。光陽っ子が地域の方と会話し、ふれあいながら自身が暮らす地域の魅力を再確認してもらうのが狙いだ。また通学路の安全点検も兼ね実施し、地域全体で取り組んでいる。

#### ウ 「学校へ泊まろう！」

近年、児童数の減少と共に教職員の人数も減少傾向にあることから学校行事の実施が難しくなり、中止や廃止が決定するものがある。またコロナ禍をきっかけに全国的に働き方が見直され、学校単独での行事運営は厳しさを増している。そんな中、令和6年度よりスタートさせた新規行事は5・6年生を対象に「学校へ泊まろう！」と「立山へ登ろう！」を毎年交互に実施する計画である。学校側からの意向もあり、地域のサポートにより、廃止になった立山登山を光陽っ子に経験させてほし



いとの要望からである。またPT

Aから立案したのが「学校へ泊まろう！」である。少しでも多くの光陽っ子が楽しく交流できる場を作りたいとの思いである。次年度は「立山へ登ろう！」を地域と協力して実施するため、その計画を作成中である。

## 4 まとめ

これまでの内容は光陽校区として地域に定着した行事であり、光陽っ子は常に地域のネットワーク内で見守られている。光陽っ子に対する応援や協力は、成長した光陽っ子が地域に返すかたちで相互扶助が形成され、非常時や有事の際に結束力が生まれると考える。

今年1月1日の16時10分頃に発生した令和6年能登半島地震においては地域の防災、消防を始め様々な方が協力して避難所の開設、災害ボランティアに当たられた。また、地震発生後4時間も経たずして、高速道路のSAには東海地方から広域災害対応部隊が出動要請を前に待機されていた。東海北陸で構築されたネットワークがこれ程心強いと実感した瞬間はない。本資料作成を通して、地域連携は特別なことではなく、仲間が困った時に助けあえる関係構築が大切であり、日々の活動に落とし込んでいるかを振り返る機会となった。

今回の地震は家族が集まっている様な時節柄であったが、もし子どもたちが学校にいる時や登下校時なら、皆さんどういった行動を取っただろうか。富山県にも「こども110番の家」が定着している。何かあった時に直ぐに助けを求められるよう、通学路にあるお家やお店にお願いして設置している。防犯対策だけではなく、防災対応としても機能することを再認識した。結びに転勤者が多く地域とのつながりが少ないからこそ、学校を中心とした地域連携の取り組みにおいて光陽っ子の成長を見守り、PTAの活動を通して育まれた深く強い絆は大切に受け継いでいく所存である。